

令和5年度第2回遠野市総合計画審議会 会議録

会議日時：	令和5年8月10日（木） 13:30～15:25
場 所：	遠野市役所本庁舎 多目的大会議室
出席委員：	社会福祉法人遠野市社会福祉協議会 及川増徳 会長 TKプロジェクト実行委員会 新里佳子 副会長 一般社団法人遠野市教育文化振興財団 小向孝子 委員 遠野市消防団 阿部和美 委員 一般社団法人遠野市医師会 菊池俊彦 委員 遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会 菊地セツ子 委員 遠野市体育協会 熊谷義弘 委員 遠野市民生児童委員協議会 佐藤正市 委員 遠野市わらすっこ支援委員会 松田希実 委員 花巻農業協同組合 小松大成 委員 遠野地方森林組合 菊池修市 委員 一般社団法人遠野市観光協会 三浦芳昌 委員 遠野商工会 佐々木弘志 委員 遠野市校長会 佐々木美紀 委員 遠野市郷土芸能協議会 赤坂康紀 委員 遠野市婦人団体協議会 海老糸子 委員 岩手県南広域振興局 山本卓美 委員 遠野市金融団 菊田修一 委員 遠野ひまわり基金法律事務所 相高宏太 委員 株式会社遠野テレビ 佐々木浩章 委員
代理出席：	遠野市 PTA 連合会 北川祥樹 氏 遠野市ふるさとづくり市民会議 八重樫正昇 氏
欠席委員：	NPO 法人遠野エコネット 千葉 和 委員 岩手県行政書士会遠野支部 山口美恵 委員 一般社団法人遠野市青年会議所 河野堅太 委員
市 役 所：	副市長 鈴木惣喜 教育長 佐々木一人 総務企画部長 鈴木英呂 健康福祉部長 菊池 寿 産業部長 阿部順郎 環境整備部長 村上明洋 市民センター所長 海老寿子

	<p>教育部長 伊藤貴行 消防長 千田一志 会計管理者 新田順子 総務課長 佐々木伸二 経営企画課長 新田正宏 財政課長 白岩克己</p>
<p>1 開会 (13:30～)</p>	<p>【進行：鈴木総務企画部長】</p>
<p>2 市長あいさつ (13:31～)</p>	<p>皆さんこんにちは。副市長の鈴木です。 多田市長が所用のために欠席させていただくことになりましたので、代理であいさつさせていただきます。 本日は、お忙しい中、総合計画審議会に御出席を賜り感謝申し上げます。 日頃、各委員の皆様におかれましては、それぞれの立場から市政発展に御尽力と御協力を賜っていることに、重ねて感謝申し上げます。 本日の審議会では、恒例ではございますが、まちづくり指標と重要業績成果指標、いわゆるKPIの令和4年度実績について御審議いただくほか、昨年末に国が新たに策定した、デジタル田園都市国家構想に関連する当市の総合戦略の改訂について、皆様に御審議いただくこととしております。 まちづくり指標等においては、長引く新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、令和3年度に引き続き目標値を達成することができなかったところが見受けられてございます。 その中であって、関係者皆様の努力によって、感染対策を講じながら各種行事を再開し、また3年ぶりに日本のふるさと遠野まつりを開催するなどし、市内観光施設の入込数や宿泊者数が大きく増加するなど、回復の兆しが見え始めてきていると認識しているところでございます。 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられた以降、市内では各種イベント内容をコロナ禍前に戻したほか、遠野の元気を取り戻すための新たな仕掛けなども展開しております。 委員の皆様にも、各方面での御協力をお願い申し上げます。 本日は、委員の皆様には、それぞれの立場から事業推進につながる建設的な御意見を賜りたいと存じます。 限られた時間ではございますが、慎重審議の上、最後まで御協力よろ</p>

	<p>しくお願い申し上げます。</p>
<p>3 会長あいさつ (13:32～)</p>	<p>大変御苦勞様でございます。 連日暑い日が続いております。 委員の皆様には、それぞれ担っている役割が多くあろうと思います。 どうぞ、健康管理に気を付け、この暑さを乗り切っていただきたいと、そのように思います。 本日は、先ほど副市長から御案内がありましたが、審議事項は3件です。 令和4年度のまちづくり事業の実績や重要業績成果指標の結果が提示されています。そして、総合戦略の改訂について提案されており、この3件の審議について、よろしくお願いいたします。 なお、本日の審議会は、15時30分を目途にとなっておりますが、可能な限り、時間内での審議、進行をしまいたいと思っておりますので、御協力のほどお願いいたします。</p>
<p>4 委員及び職員紹介 (13:34～)</p>	<p>※副市長、教育長について、各委員に紹介 ※3役以外の市職員については、配席図をもって各委員に紹介</p> <p>【議事進行：及川会長】</p>
<p>5 報告 (13:40～)</p>	<p>それでは、次第5、報告に入ります。 報告案件として、岩手県知事への統一要望の実施についてが提案されております。事務局の説明をお願いします。</p>
<p>13:41～13:47</p>	<p>○岩手県知事への統一要望の実施について ※報告資料No.1-1、1-2により新田経営企画課長が説明</p>
<p>及川増徳議長 (13:47～)</p>	<p>ただ今、事務局から説明がありました県統一要望に関して、質問や意見等がありましたら、御発言をお願いします。</p> <p>【質疑なし】 質疑がありませんので、以上で報告については終了いたします。 次に、次第6、審議に入ります。 審議案件として3項目が提出されています。 審議1と審議2について、併せて説明をいただいた後に、質問や意見をまとめて受付することにしたと思います。 それでは、事務局の説明をお願いします。</p>

13:48~13:57	○遠野市まちづくり指標の令和4年度実績について
	※審議資料No.1-1、1-2により新田経営企画課長が説明
	○重要業績成果指標（K P I）の令和4年度実績について
	※審議資料No.2-1、2-2、2-3により新田経営企画課長が説明
及川増徳議長 (13:57~)	<p>ただ今、まちづくり指標の令和4年度実績、そして重要業績成果指標 K P I の実績について説明がありました。</p> <p>審議案件1と2について、一括して質疑を受け付けます。</p>
三浦芳昌委員	<p>もう少しでお盆に入るわけですが、宿泊客が非常に増えている。問合せも多くて、私のところだけでも、朝6時半を過ぎると宿泊状況の確認。夜も9時、10時まで電話が鳴りっぱなしという状況が続いており、8月のビールフェスまでは、ほぼ市内の宿泊施設は良い状況ではないかと思っています。非常に、観光客は増えてきていますし、一般のお客さんも増えています。</p> <p>なぜ増えているのか分析してみると、観光協会が行っている、遠野に泊まって応援クーポンがかなり力を付けており、非常にお客様から好評であります。宿泊割引のほかに、市内で買い物などできるクーポンを貰うことができるということで、非常にお客様からも好評を得ています。10月20日まで使えるクーポン券がありますが、実は、もう既に枚数が少なくなっており、担当者に確認したところ、8月の中頃には無くなるのではないかと予想しています。</p> <p>予算に限りがあるので仕方がないのですが、是非来年もこの事業を継続していただきたいと思っています。多額の予算が難しいと思いますが、宿泊して、飲食して、それからお土産を買って、そして地域にはお金が落ちるということで、非常にお客様に好評ですし、そのような取組によって、いろいろな数値も上がってくると思いますので、担当課の方では御検討をお願いしたいと思います。</p> <p>非常に宿泊のお客様が増えています。仕事で遠野に泊まって、次は家族で観光に来てくれるお客様も大変多くなってきておりますので、今は、ここが頑張りどころだと思いますので、本事業の継続を含めてよろしくお願ひします。</p>
及川議長	他に御質問の方はいますか。

<p>新里佳子委員</p>	<p>審議資料2-3ですが、令和5年度と令和6年度が空白になっているところは、これは事業が終了したという認識で良いのでしょうか。</p>
<p>新田経営企画課長</p>	<p>計画期間が5年となっているため、対象外の年度については網掛けしています。</p> <p>事業自体は、そのまま継続されていますが、補助事業を活用しての計画期間が5年ということで、国に報告する内容に合わせて整理しています。</p>
<p>新里佳子委員</p>	<p>特に、みらい創りカレッジのところについては、確か、かなりの金額を投じていろいろ整備した経緯があったかと思いますが、これについては、今後何か活用方法というのはあるのでしょうか。</p>
<p>海老市民センター所長</p>	<p>みらい創りカレッジにつきましては、令和3年度で事業をしていた団体が撤退をし、令和4年度で、ある程度清算されたということになります。</p> <p>現在は、地域の方々を中心に、農村RMOの団体が入っており、他には市内のサークル活動といったの方々が入って活動をしています。</p>
<p>阿部産業部長</p>	<p>三浦委員の質問にお答えします。</p> <p>遠野に泊まって応援クーポンは、コロナの影響対策で実施している事業であります。きちりと総括をして、次年度やるかどうかについて判断をしていきたいと思っています。</p> <p>三浦会長はよくご存じと思いますが、観光というのは、入り込みの人数だけでは総括できません。つまり、交通費や宿泊費、飲食代、お土産代、あるいは入館料とか、各アクティビティ等のサービス、それらが全部観光消費額に繋がります。入り込みだけでなく、遠野の域内で、どのように消費が喚起されるのかということが大事な要素になります。</p> <p>この4月に、観光マネジメントボード、観光のDMOが立ち上がりましたので、観光協会と一緒に、どうしたら観光の消費額を喚起できるのかということ議論しながら、適正に、適正な時期に判断をしたいと考えています。</p>
<p>三浦芳昌委員</p>	<p>インバウンドの方も大分良くなってきており、外国のお客さんも、ちらほらと見えています。遠いところでは香港、台湾、それからカナダ等からも来ています。</p>

	<p>国内では、一番遠くからは沖縄から来ていますし、最近では岡山、香川、広島、四国や中国地方のお客様が来ています。</p> <p>皆さん必ずクーポンを持ってきて、市内に宿泊して買い物をしたり食事をしているようです。</p> <p>ただ問題は、やはり二次交通がないというところで、レンタカーも見つけにくく、さらにはバスも数本、タクシーもなかなか走っていないということで、そのような部分でお客様からの苦情と申しますか、御意見を良くいただきます。</p> <p>これも含めて協議をしながら、是非、クーポン事業の継続をお願いしたいです。意見です。</p>
<p>小松大成委員</p>	<p>農協理事の立場で、このような質問は如何なものかと思いますが、遠野市の和牛生産の今後の見通しということで質問させていただきます。</p> <p>例えば、未達成の中に、生産出荷頭数の減少ということが記載されています。それと同時に、出荷頭数の減少のみならず、畜産農家の減少というものも、かなり顕著になってきていると思っています。</p> <p>恥ずかしい話ですが、花巻農協管内における畜産の取組というのは、私から見て、甚だ遺憾な部分があります。そういった意味でも、私は理事会では厳しい意見を述べているのですが、そうはいても、全体の中に占める畜産の割合というのは、花巻農協から見れば、大きい割には重大に捉えていないという部分があります。</p> <p>その点について、遠野市の取組みと言いますか、畜産振興の方針について、もう一度確認させていただきたいです。</p>
<p>阿部産業部長</p>	<p>確かに和牛繁殖農家戸数は減ってきております。一方では、和牛頭数は微減傾向であり、大規模化が進行している状況にあります。</p> <p>今、一番問題となっているのが、飼料の高騰についてで、これがいつまで続くのかということです。世界中で物価が上がっており、高止まりで維持するだろうと思っています。</p> <p>そこで大事なのが、まず粗飼料の自給率を100パーセントにすること。それから、できるだけ気候にあるような配合飼料を自ら作付けをして、できるだけ自給率を高めるような形で市内の生産者に供給するといったような、つまり、外的な要因に影響されない畜産の体制を取っていきたいと考えています。</p> <p>あとは、牛の価格そのものが下落をしていますので、そういった意味では、育種改良をやらなければいけないと思います。</p>

	<p>それから飼養管理ですね。牛も高齢化していますから、いつかの時点で入れ替えを図る必要があります。売らないで主取りをしていくということになりますので、それらも進めながら、分娩期間も適正に管理しながら、牛そのものの価値を上げて、市場で高いブランド力が発揮できるような取組も併せて実施していく必要があると思っています。</p> <p>まずは飼料の自給率の100パーセントを目指すこと。それから育種改良等で市場に評価される牛を育成すること。この2点を柱にしたいと思っています。</p>
<p>小松大成委員</p>	<p>基本的なスタンスということで受け止めました。これをやるのは市職員ではなく、私たち農協の組織と一緒に進めたいという立場でしょうから、それはそれとして受け止めたいと思います。</p> <p>市の取組については、私は評価しています。</p> <p>育種に関する事、それは素牛をはじめ種に関しても、今後は市も一緒になって取組んでいくんだという方針を出されていますので、その辺は評価したいと思っています。</p> <p>ただ、そうはいっても、外堀がどんどん埋められているという実態があります。</p> <p>つまり、県の要望の中にもありましたとおり、共済組合の獣医師業務の縮小、それと授精業務の廃止といったようなことがどんどん打ち出されてきました。これに対しても、私たちも努力しますが、市としても何らかのアクションを起こしてほしいと感じていました。農協の方は、そういう業務をできないと明確にしています。であれば、行政と農協や共済組合が何らかの方針を今後打ち出さなければ、畜産農家は大変な状況になるんだろうと思っています。</p> <p>そのようなことも頭の中に入れながら、畜産の方針というものをどんどん打ち出して行って欲しいと思っています。</p>
<p>及川増徳議長</p>	<p>私も農業の部分で伺いますが、K P Iの実績で、資料No.2-2の1ページ目、農家世帯割合がありますが、実績値は令和2年度から横ばいとなっていますが、評価では、農家世帯数は66世帯減少していると記載されています。</p> <p>指標の数値との矛盾を感じたのですが、どのような計算となっているのでしょうか。</p>
<p>阿部産業部長</p>	<p>農家世帯の割合を示しているものですが、詳細を確認する必要があります。</p>

	<p>ますので、少しお時間を頂戴します。</p>
<p>小向孝子委員</p>	<p>資料1-2の110番、みんなで築くふるさと遠野推進事業参画者数に関して、わずかながら未達成だったということですが、11地区の新たな一括交付金事業に移行して5年目ということですが、地区センターの組織を市職員ではなく委託ということになり、その辺の部分で、この指標に対する影響というものがあるのかどうか伺います。</p>
<p>海老市民センター所長</p>	<p>みんなで築くふるさと遠野推進事業参画者数は、各地区のまちづくり協議会の方で運営していただいている、ハード事業やソフト事業の結果となっています。</p> <p>令和4年度は、やはりコロナの影響があり39事業が中止となったことが、目標値を達成することができなかった原因となっています。ここには記載しておりませんが、令和元年度は3,963人、令和2年度は3,039人と大きく減少し、令和3年度も若干減少し2,907人となっています。令和4年度は、やはりスポーツ健康事業ができず、若干上向き傾向であります、3,582人の参画となっています。</p> <p>市の職員ではなく委託になったことという部分については、この指標に関しては影響ないものと考えています。</p>
<p>小松大成委員</p>	<p>鳥獣被害対策について伺います。</p> <p>鹿は、そのとおり大変な状況になってきました。それ相当の対策を練られていることは伺っています。</p> <p>もう一つ心配なのが、イノシシです。私が知っている人で、種山高原牧場にイノシシが侵入してきて、何を食べているのか分からないが、石ころをひっくり返して、草刈りもできない状況にあるとのことでした。うちの地域では、菊芋やジャガイモに被害があり、電牧のやり方も鹿とは違うようで、その対策に、かなりの農家が困惑してきている状況にあります。</p>
<p>阿部産業部長</p>	<p>イノシシについても、数年前から目撃情報が出てきており、その情報は、だんだん多くなってきています。具体的な農作物被害も出てきておりますが、鹿とは防除の仕方が違うため、電牧も役に立ちません。</p> <p>したがって、まったく別の牧柵を作るとか、箱罾を購入するなどの対策が必要となります。鹿対策と同時に行うこととなれば、かなりの費用負担になってきますので、県等への要望を行っているところでございま</p>

<p>小松大成委員</p>	<p>す。</p> <p>一番良いのは、捕獲圧を強めるということになりますが、これについても、なかなか県も市も打ち手がないというところであり、本格的にイノシシが増える前に、しっかりと駆除しなければ、最悪は、これまでの倍以上の予算がかかるということになるので、今後も注視していきたいと考えています。</p> <p>増えてからでは遅いということではなく、既に増えています。私も2年くらい前に見てから、今はもう、見ないというところがないくらい見えています。</p> <p>一番分かりやすいのは、小友の最初の大きなカーブがありますが、そのあたりは、イノシシが穴を掘ってポコポコになっています。それらが集落に下がってきて、うちの集落では菊芋が全滅だと、それからジャガイモも全滅だと。</p> <p>とにかく、穴を掘ってみんな食べてしまうといったような習性があるので、市役所の担当課に言ってもどうしようもないと思いますが、大変な事態だと思っていましたので、増えてからでは遅いではなく、もう増えていますので、よろしくお願いします。</p>
<p>及川増徳議長</p>	<p>せっかくですから、資料No.1-2の10ページ、自主事業の顧客満足度や市民協働の芸術文化事業の鑑賞者数などの実績が出ていますが、コロナ感染症の影響から、これら文化鑑賞や芸術鑑賞の機会は、かなり制限された3年間であったと思いますが、今年度はどのような予定でしょうか。</p>
<p>海老市民センター所長</p>	<p>自主事業の実施に際しては、相手方と半年や1年以上前から計画を立ててPRもしていく必要があるのですが、残念ながら、令和4年度は実施できませんでした。</p> <p>令和5年度については、令和4年度の後半あたりからコロナが終息に近づいていくのではないかという状況もあったことから、既にPRさせていただいていますが、9月23日に2回目となる「わで奏でる東日本応援コンサート 2023in 遠野」ということで、三浦祐太郎さんをお招きして、音楽を皆様に提供する自主事業を予定しています。</p> <p>また、他からも打診が来ておりまして、そのような場をどんどん提供できるように進めてまいりたいと思います。</p>

<p>三浦芳昌委員</p>	<p>108番の河川清掃参加者割合についてですが、先日河川清掃があって私も参加して来ましたが、参加者が少なくて、去年よりも少ないような気がしました。</p> <p>市民協働、景観維持、環境保全など、いろいろな部分から、継続して取り組む必要があると認識していますが、このままだと河川清掃ができなくなってしまうのではないかと危惧しています。</p> <p>今後、どうするお考えか伺います。</p>
<p>村上環境整備部長</p>	<p>今までの参加者の推移をみると、昨年は5,600人、その前は6,000人ほどとなっており、今年度については、集計がこれからとなりますが、多分、前年度より減少するのではないかと考えています。</p> <p>しかしながら、河川清掃については、景観保全や地域の環境活動の一環として、できる範囲で継続していただきたいと思っています。</p> <p>自分たちが住む地域の環境を自分たちで維持していただきたいという思いもあります。</p> <p>できる範囲でと言っても難しい地域もあると思いますので、そのような活動が困難な場合の対応については、市で検討を進めてまいりたいと考えています。</p>
<p>及川増徳議長</p>	<p>私も河川清掃に参加しましたが、いろいろ課題はあると感じました。年齢とともに、そのように強く感じます。やはり1年に1回の清掃では、草丈が伸びすぎて、高齢者には負担が大きい。年2回程度であれば、割と刈りやすい。宮守地域では年に2回やっているようで、そのようなやり方も非常に良いと思う。</p> <p>それと、今年の河川清掃の様子が遠野テレビで紹介されたか分かりませんが、河川清掃は市民参加の大きなイベントと言っても良いと思います。人口減少や働き手の高齢化など、マイナスの要因を実感するだけに、明るい話題として、もう少しPRして欲しいなど感じました。</p> <p>他に、質疑はありませんでしょうか。</p> <p>それでは、質疑については、以上で終了といたします。</p> <p>ただ今、委員の皆様から御質問や御意見をいただきましたが、本案件について、提案の内容を了とすることによってよろしいでしょうか。</p> <p>【異議なしの声あり】</p> <p>それでは、審議案件の1、遠野市まちづくり指標の令和4年度実績について、審議案件の2、重要業績成果指標KPIの令和4年度実績については、事務局提案のとおり承認と決しました。</p>

	<p>次に、審議3について、事務局の説明をお願いします。</p>
<p>14:33~14:40</p>	<p>○遠野スタイル創造・発展総合戦略まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について ※審議資料No.3-1、3-2、3-3により新田経営企画課長が説明</p>
<p>及川増徳議長 (14:40~)</p>	<p>説明が終わりましたので、質疑に入ります。 ただ今、事務局から説明がありました事項に関し、質問や意見等はございませんか。</p>
<p>菊池俊彦委員</p>	<p>私の個人的な考え方ではありますが、DXとかAIとかITとか、KPIもそうですが、カタカナやローマ字が飛び交うのには、私は、すごく違和感があります。 特に、デジタルにすれば何でも良くなるみたいな風潮といいますか雰囲気は、私は好きではないです。 具体的な例として、政府はマイナンバーカードと保険証の一体化について進めていますが、これについても私は最初から批判的に思っていました。保険証は今までどおりで良いと思っています。 それから、中部保健所管内の医療機関と保険薬局などを結んでデータを統合しようといった中部ネットの取組も、花巻市や北上市、西和賀町、遠野市からお金が出ていますが、これもほとんど使われておらず非効率的です。 先ほど、県への要望について説明がありましたが、その中のGIGAスクール構想について、各生徒に1台タブレットを整備したとのことですが、これもすごいお金がかかるわけで、もっと別なことにお金を使った方が良いのではないかと思います。 私が何を言いたいかという、特に遠野市においては、少子高齢化によって人口が減少していることに、とにかく何とかしなければならないと思うのです。これに対して、デジタルとかDXというのは、何の意味も成さないのではないかと思います。</p>
<p>鈴木総務企画 部長</p>	<p>菊池俊彦委員のお考えについて、重々理解できます。 今度の9月定例会に、遠野市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例の制定についてといった、硬い名前の条例を提案する予定としています。 皆さんは、オンラインという言葉を使っていると思いますが、これを</p>

	<p>日本語に訳すと電子情報処理組織とって、かえって分かりにくい言葉になります。</p> <p>条例を提案するに当たっては、何が一番分かりやすいかということを考えて制定しているところであり、既に皆様に周知されているようなカタカナ用語は使って行くようにしています。</p> <p>我々職員の中でも、今回のDXの取組については、今まで行ってきたアナログの改革だと位置付けて取り組むこととしており、国からも書かない窓口の推進が示されており、その前提にはマイナンバーカードによって個人を特定するといったような仕組みが考えられています。</p> <p>人口減少だけでなく、市職員も減らしていくといったような状況の中で、アナログ改革は、必須の取組であると考えています。</p> <p>ちなみに、遠野市では、来年1月から住民票などのコンビニ交付を開始する予定としており、現在準備を進めています。</p> <p>コストの面から費用対効果を見た場合、果たしてどうかなという議論もありますが、市民サービスの向上ということで進めているところです。</p>
<p>小松大成委員</p>	<p>参考になるか分かりませんが、花巻農協でのデジタル化の推進について紹介します。</p> <p>理事会については集合して開催されますが、議決を伴わない会議については、その都度、花巻の本社に集めるのではなく、オンライン形式により、支店の会議室を結んでやっています。このようなやり方については、市役所でもできると思います。</p> <p>それから、会議資料は全てデータ化されていて、会議は全てプロジェクターを見て行います。ペーパーレス化で花巻農協では、年間数千万円の費用が削減されたと報告されており、これには私も驚きました。</p> <p>ただ、これには怖い面もあり、マイナンバーカードと保険証の紐づけで、個人情報が出たといったようなこともありますので、諸手を挙げて賛成ということにならないと思いますが、世の中の流れとして、避けられないのだろうと感じています。これは私の感想です。</p>
<p>佐々木弘志委員</p>	<p>重点プロジェクト1の目標値についてですが、6年後の従事者数について5パーセントの増加を目指すとはありますが、これは、あまりにも現実の世界とかけ離れていると思います。最低でも、現状維持が今の人口減少の中では考えられるベストな目標だと思います。例えば、今子供が生まれても18年経たないと生産年齢人口には寄与しません。ずっと人口が減っていく中で、果たして5パーセントのアップができるのでしょ</p>

	<p>うか。</p> <p>それと、先ほど菊池委員が話した、デジタルとアナログの話について、私もまったく同感であり、過去何回もこの会議で、役所はカタカナが多すぎると指摘してきました。役所の人には分かるかと思うのですが、ところが役所の人に聞いても、意味が分からないというものが結構あるのです。</p> <p>デジタル社会だからといってアナログを否定するのではなく、アナログにはアナログの良さがあるし、デジタルにはデジタルの良さがあります。</p> <p>高齢者になるとデジタルに対応しにくい方が増えてくるわけで、そのような状況の中で、一気にDXを進めて行くことについては、ちょっと心配な面があります。我々の生活がDXによってこのように変わって行くんだということが分かるように、具体的に文章化できれば理解しやすいが、このままだと良くわからない。デジタル化によって税金や安くなるとか、例えば、そういった具体的な話があればDXを進めようかという気にもなるのですがね。</p> <p>ちょっと遡って申し訳ないが、県への要望に関して、私どもの一番の関心事は、県民の皆さんもそうだと思いますが、物価高騰についてはないかと思っています。インフラ整備は確かに大事ですが、今の円安による物価高とか、国際情勢の悪化によるエネルギーの供給問題とか、こちらの方が、よっぽど大事でないかと思っています。物価がどんどん上がり、電気料もどんどん上がって、商売されている方は非常に苦慮されていることについて、これを要望すべきではないかと思っています。</p>
<p>阿部産業部長</p>	<p>6年後の従事者数について5パーセントの増加を目指すという目標値の設定についてですが、SMCのサプライヤーパーク構想では400人の雇用が必要になると新聞報道がありました。それから、第2工場の建設によって300人の雇用創出が生まれるとも報道されています。あるいは、県南全部では2,000人の雇用が不足しているというような報道もありました。</p> <p>SMCありきではありませんが、そうした数字を考慮していく中で、5パーセントでも不足するのですが、そのくらいの雇用確保を目指して行かなければならないと考えています。</p>
<p>菊池健康福祉部長</p>	<p>県への要望について、説明では重点要望の内容を中心に行ったために触れていませんでしたが、要望項目の17番目に、新型コロナウイルス感</p>

	<p>染症対策等に係る支援について要望しており、その中の小項目に、地域経済回復に向けた財政支援等の拡充について要望をしております。</p> <p>地域の実情に合わせて、物価高騰対策等を柔軟に展開できるよう、新型コロナウイルス感染症対策とは別の物価高騰対策等に係る支援策の拡充を国等に働きかけるよう要望しています。</p>
<p>鈴木総務企画部長</p>	<p>DXに関して、まずは窓口での手続きの簡素化について、印鑑の廃止も含めて、既に取り組みを始めています。</p> <p>また、農業では、スマート農業のための農業機械やドローンの導入などに取り組んでいこうと考えています。</p>
<p>菊地セツ子委員</p>	<p>高校魅力化プロジェクトは、現在どこまで進んでいるのでしょうか。</p> <p>人口減少もそうですが、少ない予算でいかに効率よく、先を見越して対策を講じることが必要と考えます。</p> <p>あとは目標数値ですが、今まで100パーセントを目指していたものを80や90にするというような考え方で、果たして良いのでしょうか。</p> <p>高校魅力化プロジェクトについては、広報とかで存じ上げていますが、今の状況についてお知らせ願います。</p>
<p>伊藤教育部長</p>	<p>現在、市内に高校が2校ありますが、県の統合計画が発表された際に市民運動などもあり、結果、存続ということが決定して今に至っています。</p> <p>人口減少が進み、生徒の数も減っていくのも事実であり、今年は、遠野高校は1クラスの減となったことから、今回お示ししました目標値は、それに合わせて数値を下げたものとなっています。</p> <p>県への要望にもありますが、人口が減っていく中で地域の面積も広く、その中で特徴のある高校を残していただきたいと、そういうやり方を、県の方でも検討していただきたいということで、少人数学級であるとか市外からの受入れの緩和とかを要望しておりました。</p> <p>そのような形で取り組んでいますが、市内の子供の数は大きく減ってきているのが現状であり、今は200人前後の高校入学者数ですが、令和11年くらいになると、150程度の高校入学者数となってまいりますので、市内の子供たちに魅力を感じていただけるような、そのような高校になるように、学力やクラブ活動などの支援のほか、市外から入学していただけるための環境整備など、いろいろと検討して進めています。</p> <p>市と両校での三者連携協定を結び、常に情報交換をしながら、様々な</p>

	<p>取組を進めているところでございます。</p>
<p>小松大成委員</p>	<p>コロナ禍でテレワークが推奨された時期がありました。 遠野テレビのネットワークは高速化されて、市内にいても東京にいるのと同じように仕事ができるといったような状況にあったと思いますが、コロナが落ち着いた時に、これまでのそういった流れはどうなったのでしょうか。あまり、そのような話しを聞かなくなってきたのですが、東京に拠点を構えながら遠野に来て仕事をしているという話しを聞いたことがあったのですが、現状はどのような感じでしょうか。</p>
<p>阿部産業部長</p>	<p>テレワークについては、どこでもできるということが基本ですので、実態の把握というところには至っていません。最近、働きながらバケーションするといったようなワーケーションという動きもあり、そのような観光商品もあります。NTTなどと事業連携をしながら試行的に取り組んでいますが、そのような流れが強くなっていくだろうと思っています。</p> <p>それと、横文字で大変申し訳ありませんが、マルチハビテーションという言葉も出てきました。あるいは地域留学といったような、遠野に1週間滞在して農業体験してみるとか、そのような、いろんなニーズが出てきていますので、これにしっかりと対応できるようにしていきたいと考えています。</p>
<p>小松大成委員</p>	<p>私の個人的な話になりますが、娘がコロナ禍のために会社から仕事を持ち帰って、データで送られてきたものを入力作業するといったような、単純作業のためどこでもできるということでやっていたのですが、コロナが落ち着くと、家でもできるのですが、みんなの顔が見たいからといってテレワークをやめました。</p> <p>私は、テレワークに関しては、十分仕事に生かせるということであれば、例えば、移住についての戦略の一つとして盛り込んでも良いのではないかと思ったりもします。すぐやれということではありませんが、世の中の動きの中で検証していただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。</p>
<p>北川祥樹氏</p>	<p>意見ではありませんが、伝えたいと思ったことがありましたので発言をお許し願います。先ほど質疑がありました、GIGAスクール構想について、個人的ではありますが、親として、市役所に対してありがたい</p>

など思うことがあります。

昨年、小学生になる娘がコロナに罹り学校を休ませなければならなくなりました。家族全員も罹りまして、1か月小学校に行けなくなりました。その際に、小学校からタブレットを借りてオンライン授業をさせていただき、おかげで娘は1か月間学校に通うことなく勉強ができ、すごく良かったと思いました。

逆に、中学校の娘は、その時はタブレットでのオンライン授業に対応していなくて、1か月間、自宅学習で勉強しなければならないということがありました。ちょうど夏休み前で、休み明けの学力テストでは点数が落ちてしまったということで、すごく、小学校の娘と中学校の娘とでは、大きな差があったなと思いました。

そのような経験から、GIGAスクール構想を進めていただいたことに対して、本当にありがとうございますということを伝えたくて発言させていただきました。ありがとうございます。

伊藤教育部長

GIGAスクールについては、本来は、段階的に導入する予定であったのですが、コロナ禍となり、全国一斉に入ることとなりました。

遠野市においては、遠野テレビのネットワークがあったために、県内でも、かなり早い段階で導入することができました。その中で、コロナ禍でオンライン授業や、学校に投稿できない生徒に対して、イベントなどを中継して視聴させるなど活用も広がってきていました。この傾向は、ますます広がると思いますし、今は夏休みに持ち帰るなどして活用してきています。

ただ、これらは機械であるために、5年くらいで更新が必要となってきます。今回、県への要望では、そのような部分への支援をお願いしており、今後は機器の更新と学校での活用について、併せて対応していきたいと考えています。

及川増徳議長
(15:17～)

他に、質疑はありませんでしょうか。

それでは、質疑については以上で終了といたします。

いろいろと、御質問や御意見が出されましたが、本案件について、提案の内容を了とすることでよろしいでしょうか。

【異議なしの声あり】

それでは、審議案件の3番、遠野スタイル創造・発展総合戦略まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂については、事務局提案のとおり承認と決しました。

<p>阿部産業部長</p>	<p>次に、次第7、その他に入ります。 事務局からありますか。</p> <p>重要業績成果指標の審議に際して、及川会長より農家世帯の割合についての質疑があり、回答を保留としていた部分についてお答えします。 農家世帯割合は、市内の全世帯に占める農家世帯の割合となっています。</p> <p>令和3年度と令和4年度の農家世帯数の比較は、マイナス66世帯、市内の全世帯数の比較はプラス64世帯となっています。</p> <p>実数では、令和4年度の農家世帯は4,382世帯、全世帯は10,743世帯であり、割り返すと40.79パーセントとなります。</p>
<p>鈴木総務企画部長</p>	<p>その他でございますが、本年度の総合計画審議会は、本日の第2回をもって一旦終了となります。</p> <p>今後、皆様に審議いただく案件等が発生した場合には、あらためて御案内をいたしますので、その際にはよろしくお願いいたします。</p>
<p>及川増徳議長</p>	<p>その他に、委員の皆さんから何かありますか。</p> <p>無ければ、以上で審議を終了とし、進行を事務局にお返しします。</p> <p>進行に御協力をいただきまして、ありがとうございます。当局におかれましては、出されました意見等については、内部において検討や配慮をお願いします。</p>
<p>鈴木総務企画部長</p>	<p>及川会長、会議の速やかな進行ありがとうございました。</p> <p>ここで、副市長から総括的な挨拶を申し上げます。</p>
<p>鈴木副市長 (15:20～)</p>	<p>及川会長、ありがとうございました。</p> <p>皆様には、慎重審議を賜りありがとうございました。</p> <p>初めのうちは、会議が1時間くらいで終わるかというような雰囲気もありましたが、様々な分野について意見を頂戴いたしました。</p> <p>まずは、観光分野では、宿泊者数も堅調に回復してきていると、コロナ禍で非常に心配された状況が2年、3年と続いているところですが、これが回復傾向にあるということで期待感が持てると感じました。このことについて、市でも様々な政策について継続や充実をしていただきたいというような意見もありましたので、そのような部分について十分考慮した上で、10月からの新年度予算の編成に当たっていききたいと思って</p>

います。

それから、畜産振興や農業振興について、遠野市が抱えている課題については、小松委員から御指摘をいただきました。これは、市だけで解決できる問題ではありません。JAや共済の皆様と十分協議をしながら、必要に応じてですが、県や国を動かすような流れに持って行く必要があると考えています。本日報告しました、県への要望事項、そのような部分にも力を入れながら、今後、取組んでいく必要があるだろうと認識しています。

また、地域づくりについての課題も様々御意見をいただきました。先般、河川清掃があり高齢化によって参加人数も減っていることが指摘されました。まさにそのとおりだと私も感じております。私の綾織地区もそうですが、私は65歳ですが、参加しているメンバーの中では非常に若い方です。これが今の遠野市の現状です。地域づくりを担っているのが我々世代といいますか、65歳から地域にかなり根差して頑張っていたかかないと、なかなか地域が回らないというのが今の遠野市の現状だというふうに思っています。

先般、日曜日に市民野球がありましたが、当初は6チームの参加予定であったものが、実際に参加したのは4チームでした。これに対しては、これまでの地域づくりと、ちょっと違った考え方、あるいは地域の捉え方があるのではないかというふうに感じています。

そのような部分も課題と捉えながら、先ほど会長が申し上げましたとおり、市が主催する大きなイベントとして、もっと重点化しながら、地域づくりに対して、地域の皆さんと協力体制を作りながら取り組んでいかなければならない課題であると認識しています。

また、デジタル化についても、国では、誰も取り残さない、高齢者も取り残さないということでデジタル化を進めるといっていますが、必ずしも現状を見ると、そのような形に進んでいない部分もあると思います。

マイナンバーの問題や保険証の問題、これに対しては、本市としても地域の要望や現状を踏まえながら、国の施策に対応しながらも、必要な要望をしていかなければならないと考えております。

最後になりますが、高校の魅力化についても御指摘をいただきました。教育についても、教育長が自ら先頭に立ちながら、遠野の教育のあるべき姿について、将来を担う子供たちをどう育成していくかということについて、今真剣に様々な作戦を立てながら取り組んでいる状況にありますので、今後とも、皆様の御指導、御鞭撻をよろしくお願いいたします。

本日の審議事項3項目について、様々出されました御質問や御意見を

鈴木総務企画
部長

踏まえながら、残りの5年度、そして来年度に向けた地域づくり、まちづくりを進めてまいりますので、皆様への重ねてのお願いになりますが、御協力をよろしくお願ひし、挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度第2回遠野市総合計画審議会を閉会いたします。

大変御苦勞様でした。